

## 木材チップの換算係数

一般に統計処理等に用いられる換算係数（絶乾重量→丸太換算材積）は、  
針葉樹:2.2、広葉樹:1.7を採用。

市場における取引に用いられる換算係数は、産地、樹種及び季節等により相違。  
近年、重量値による取引が一般化しているが、絶乾重量の算出には係数が必要。

### 【針葉樹チップ】

材積 (丸太換算) ( $m^3$ )	チップ用原木 生重量 (トン)	容積 (見掛容量) ( $m^3$ )	絶乾重量 (BDt)	パルプ収量 (トン)
1.0	0.8	3.0	0.5	0.2
1.3	1.0	3.9	0.6	0.3
0.3	0.2	1.0	0.1	0.1
2.2	1.8	6.6	1.0	0.5
4.8	3.8	14.4	2.2	1.0

### 【広葉樹チップ】

材積 (丸太換算) ( $m^3$ )	チップ用原木 生重量 (トン)	容積 (見掛容量) ( $m^3$ )	絶乾重量 (BDt)	パルプ収量 (トン)
1.0	1.3	3.0	0.6	0.3
0.8	1.0	2.4	0.5	0.2
0.3	0.4	1.0	0.2	0.1
1.7	2.1	5.1	1.0	0.5
3.7	4.6	11.1	2.2	1.0

- (注) 1 実際の取引に用いられる換算率は、地域、樹種、部位、品質等によって異なる。  
2 見掛け容量は、トラックへの積み込み時の状況及び時間経過により異なる。  
3 チップ用生重量は、樹種毎又は含水率によって異なる。  
4 樹種毎の容積重（絶乾密度:BDt/ $m^3$ ）から材積（丸太換算： $m^3$ ）を導く場合は、  
絶乾重量の黒太枠（1.0と表記）の欄に容積重を置き換え、換算率を乗じて算出。  
（ただし、気乾密度（約15%の水分を含む状態:Adt/ $m^3$ ）から算出する場合は、  
気乾密度に100/115を乗じて絶乾容積重（BDt/ $m^3$ ）を算定）

(出典) 丸太—絶乾重量換算値：林野庁「木材需給表」

見掛容積—丸太容積：全国木材チップ工業連合会編「木材チップ」（1987）

（各樹種の平均値を算定）

絶乾重量—パルプ収量：森林総合研究所監修「木材工業ハンドブック」（スギ、クリ他）

丸太—チップ用原木生重量：林野庁業務資料（業界聞き取り等の結果\*）